平成30年度栃木ケーブルテレビ放送番組審議会

議事録

１．開催日時　平成31年2月19日(火)　11:30～13:00

２．開催場所　ケーブルテレビ株式会社　栃木センター大会議室

３．出席委員　審議委員総数　17名（随行3名）
　　出席委員数　　14名

■出席者（敬称略）

大　川　秀　子　会　　長（栃木市長）
広　瀬　寿　雄　副 会 長（下野市長）
小　菅　一　弥　副 会 長（壬生町長）
阿　部　勝　彦　委　　員（大平町商工会 会長）
三　室　一　男　委　　員（都賀町商工会 会長）
山　岸　弘　幸　委　　員（西方商工会 会長）
安　藤　芳　雄　委　　員（岩舟町商工会 会長）
青　木　隆　司　委　　員（壬生町商工会 会長）
池　田　　正　委　　員（栃木警察署 署長）
石　田　　栄　委　　員（栃木市消防本部 消防長）
前　原　武　　委　　員（石橋地区消防組合消防本部 消防長）
柳　田　和　子　委　　員（栃木市女性団体連絡協議会 会長）
井　上　永　子　委　　員（下野市男女共同参画推進委員会職務代理者）
大　橋　和　枝　委　　員（壬生町女性団体連絡協議会 会長）

■ケーブルテレビ株式会社 出席4名

髙　田　光　浩　（代表取締役）
木　村　嘉　孝　（コンテンツ部課長）
田部井　肇　子　（コンテンツ部TVグループ主任）
白　川　暢　子　（コンテンツ部TVグループ主任）

４．報告事項

【全体】

（１）新委員の委嘱に関するご報告
（２）放送エリア及び加入状況に関するご報告
（３）新たなサービス、取り組みに関するご報告
（４）審議会でのご指摘・進捗状況に関するご報告

【コミュニティチャンネル関連】

（１）平成 30 年度コミュニティチャンネルに関するご報告
　　１．コミュニティチャンネル概要
　　２．主なレギュラー番組（平成 30 年実績）
　　３．特別番組（抜粋）

質問・回答

【委　　員】 鹿沼秋まつりを放送したが、小山の花火大会の中継は可能か。
【ＣＡＴＶ】 鹿沼秋まつりは栃木県ケーブルテレビ連絡協議会での映像交換により放送できた。今後もできるだけ生放送を連携できるように取り組んでいきたい。

【委　　員】 東京オリンピックや 2022 年に栃木で開催される国体時の取り組みのビジョンについて。
【ＣＡＴＶ】オリンピック取材は扱いが難しいが、放送エリア内に出場選手が出てくれば、インタビュー等で対応することは可能。国体ではたくさんの競技を取り上げ、国体の価値を理解していただくように、事前 PR やチーム紹介などに時間をかけて取り組んでいきたい。

【委　　員】 板倉町が栃木市に次ぎ、加入率が高いのはなぜか。
【ＣＡＴＶ】板倉町には板倉ニュータウンという住宅団地があり、建物は共同アンテナになっており、ケーブルテレビがアンテナを管理させていただいているので高い加入率となっている。

５．議事

【ご視聴番組やコミュニティチャンネルに対してのご意見、ご要望】

【委　　員】 栃木市防災訓練で「災害時には電気を切って」と放送したが、ひと言で終わってしまうのではなく、ブレーカーを落とすことなどの案内も入れて欲しかった。

【委　　員】通電火災に注意、逃げる場合はブレーカーを落としてと案内すること、夜間の場合に備え、懐中電灯を置いておくことも大事。

【委　　員】災害時の心得があればよい。

【委　　員】非常持ち出し袋を紹介したことは良かった。東日本大震災時に「普段飲んだ薬が分からない」という事例が多かったので、非常持ち出し袋にメモでも良いので入れておくと良い。

【ＣＡＴＶ】放送局として、住民の皆様に「行動をとる」意味までお伝えできるようにしていきたい。大雨災害、地震災害時には、LIFE チャンネルで特別番組を放送していきたい。

【委　　員】婦人防火クラブや日赤奉仕団など、地域で活動している団体、活動を取り上げ PR してほしい。

【委　　員】現在消防団員の確保に苦慮しているので、団の活動の PR や婦人防火クラブの活動についてもっと PR して欲しい。

【ＣＡＴＶ】ケーブルテレビとしての重要な役割だと思っている。弊社が啓蒙活動を行う。しっかり取材をして放送する。また、詐欺も横行しているので、警察とご相談をさせていただきながら、ケーブルテレビとしての役割をしっかり果たしていきたい。

【委　　員】社会福祉協議会があるが、身障者と健常者の交流と理解を深めるために、福祉に関する放送をしてほしい。商工会はどこも会員が減少している。地域の活性化が目標。3 年前から独取り組んでいる施策も紹介をお願いしたい。

【ＣＡＴＶ】ケーブルテレビの価値は地域の活性化。地域の商工業を活発にするために、こちらから声をお掛けして取材することもあるが、どんどん皆様からも情報を発信していただきたい。住民の方々に声を掛けていただき、取材依頼をいただきたい。

【委　　員】栃木市総合防災訓練で、インタビューが男性だけだった。市民参加を促すためには女性にも聞くべきだったのではないか。3.11 のあの恐怖と防災への備えを再確認する意味で、非常用持ち出し袋の紹介は大変参考になった。

【委　　員】なぜ栃木が住みやすい町になったのか、理解を深める番組を制作してほしい。

【委　　員】来年 11 月に、壬生町で藩校サミットを実施するのでぜひ取材に来てほしい。

【委　　員】今後も住民にとって、有益な情報を放送してほしい。